



『卓話：私とロータリー～国際ロータリーの現況報告～』 水野 功 様

【会長挨拶】 北村 淳 会長

4月21日(日)に日野消防署にて日野消防少年団入卒団式に出席してきました。21日(日)は少年軟式野球春き大会開会式と重なっており、消防少年団は北村が、少年軟式野球は小倉青少年奉仕委員会副委員長に出席していただきました。当クラブとしてはこのところ毎年、青少年育成団体協力金贈呈として日野消防少年団に協力金を贈呈しています。日野消防署長からは協力金に対して大変感謝の言葉をいただきました。式では来賓祝辞で一言お願いします、ということだったので次の言葉をかけさせていただきました。

東京日野ロータリークラブでは毎年、日野消防少年団に協力金を支援しております。消防署の活動という、火事が起こった時に消火活動をするのが思い浮かびますが、その他にも様々な活動をされています。火災が発生した時には消防士はそこにいません。現場の当事者が火災を発見して、119番通報し、初期消火をして、安全に避難をしなければなりません。火災になった時、慌てずそのような行動が取れるよう消防訓練などの制度も整っています。みなさんの活動を通じてこのような消防に関する知識技術が身につけて行くかと思えます。日野市の安全安心な街づくりに向けてみなさんの活動を応援しています。本日は入団・卒団、誠におめでとうございます。という祝辞を述べさせていただきました。

昨年の12月頃、現事務局の入っている田中ビルでビル全体の防災訓練がありました。その時に消防署より事務所の立入検査があり、「防火管理者未選任」と「消防計画未届」の不備を指摘されました。防火管理者となるには資格が必要とのことでした。初めは小峯消防団長に受けてもらおうと思っていたのですが、さすがに防火管理者になるのは相応しく無いということでした。仕方がないので、私が講習を受けて資格を取ることにしました。講習は、2月28日(水)29日(木)の丸2日間、立川防災館で朝9時～16時40分までのスケジュールでした。1日目は「防火・防災管理の知識」という分厚いテキストを元に1日中座学の講義でした。過去に起きた火災の事例紹介から始まり、防火管理制度など、消防の業務の全体を俯瞰出来たかなと思います。2日目は防災館の中の施設見学がありました。実際の消化器で消火液を出してみたり、非常ベルを押してみたり、消防設備の説明が一通りありました。そして最後に講義が理解できたかのテストがあり、晴れて修了証の授与となりました。

ということで、少し遅れましたが、3月25日(月)に防火管理者選任届出書を提出し、翌週4月1日(月)に消防計画作成届出書を日野消防署に提出いたしましたのでご報告いたします。

会長になると今まで見えなかったいろいろなお役目があることに気付かされます。防火管理者は会長でなくても講習さえ受ければ誰でも資格がとれますので、ご興味がある方はお声がけ頂ければと思います。



《例会プログラム》

【司会】

倉林 弘明
例会向上委員

【開会点鐘】

北村 淳 会長

【ロータリーソング】

ソングリーダー
佐保 勝彦 君
『我等の生業』

【ビジター・ゲスト紹介】

RI 理事エレクト
東京飛火野ロータリークラブ
水野 功 様東京中央ロータリークラブ
太田 嘉正 様

【出席報告】

柴田 健介 委員長

【ニコニコ報告】

凶子 久雄 委員長

【委員会報告】

会長エレクトより報告
社会奉仕委員会
ひの新選組まつり実行委員会

【卓話】

RI 理事エレクト
東京飛火野ロータリークラブ
水野 功 様

お弁当：光の家

【幹事報告】 伊東 秀章 幹事

- ① ロータリー米山記念奨学会より、「ハイライトよねやま」が届いております。
- ② R Y LA2023 に東京日野RC推薦で、多田凛さんが参加し報告書に掲載されております。受付に報告書を置いておきますのでご覧ください。



【会長エレクトより報告】 遠藤 力 会長エレクト

4月25日（木）17:30から、第1回目のクラブ協議会を開催したいと思います。場所は高幡不動尊の「開運そば」で行いますので、皆様奮ってご参加のほど、よろしくお願いします。



【社会奉仕委員会】 岩田 和頼 委員長

皆様、先日行われたクリーン作戦にご参加いただきまして、ありがとうございます。とっても天気がよくてゴミ拾い日和だったんじゃないかと思えます。当日は、メンバーの皆様14名とうちのチームから10名ぐらいということで、市長との写真も撮れて子どもたちも喜んでいました。



【ひの新選組まつり実行委員会】 山口 徹雄 委員長

皆さんこんにちは。5月11、12日の新選組まつり、皆様ご協力よろしくお祈いします。週刊少年マガジンなのですが、この中に『青のミブロ』という新選組を舞台にした漫画がありまして、今日の号に5月11、12日ひの新選組まつりに『青のミブロ』も参戦ということで、タイアップして載せました。このQRコードを読みますと、日野市観光協会のページが出るという、全国版になっていますので、ぜひぜひ皆さん、よろしくお祈いします。

【卓話：私とロータリー～国際ロータリーの現況報告～】

RI 理事エレクト 東京飛火野ロータリークラブ 水野 功 様

みなさんこんにちは。最初に、みなさんからたくさんニコニコをいただきまして、本当にありがとうございます。私は今度の7月1日から理事を務めますけれども、理事の仕事の一つにロータリー研究会の招集者という役割がありまして、12月12日～15日の4日間で行われますステファニー・アーチック会長、マーク・マローニー財団管理委員長も10日から日本に来ることになっておりまして、こちらの日野クラブには、Coホストクラブとしてご協力をいただいております。小倉さんには副実行委員長として大変重要な役割をお願いしておりますし、皆様方には絶大なるご協力をお願いしたいと思っております。また、興味のある方はぜひ、ロータリー研究会に出ていただいて、どんなことをやっているかということ、聞いていただければ大変ありがたいと思っております。

元々、ロータリー研究会というのは、シニアリーダー、パストガバナー、ガバナー、ガバナーノミニーのみ対象にしていたのですが、最近ではガバナー補佐、あるいは会長等々にも門戸を広げて、多くの方に聞いていただきたいということで、さまざまな内容を凝らしたセッションを行いますので、ぜひ出席していただいて、多くの交流をしていただきたいと思っております。

今日は、「私とロータリー～国際ロータリーの現況報告～」ということでお話をさせていただきます。

まず「私とロータリー」についてお話しさせていただきます。私は1989年36歳の時に、ご縁があって東京飛火野ロータリークラブのチャーターメンバーになりました。私は33歳の時に父を亡くしたのですが、その父が日野ロータリークラブのチャーターメンバーでして、32世高幡不動尊金剛寺の秋山御前、あるいは日野自動車の家本副社長などとチャーターをしていました。ですから、子どもの頃からロータリークラブのバッジは見慣れていまして、なんとなく憧れを抱いていました。

父を亡くした33歳のときに会社に戻り、日野ロータリークラブに入れてもらおうとしたのですが、駄目だったんですね。なぜかという、私どもの会社の会長である私のおじがすでに日野ロータリークラブに入っていたからです。なぜかという、当時のロータクラブは1業種1名の決まりがあったため、私は入れなかったんです。その後、忙しかった



こともあり、ロータリークラブのことを忘れていたのですが、ある日父の友人だった遠藤製作所の社長の遠藤保さん、覚えていらっしゃる方もいらっしゃると思いますが、遠藤さんが私に会いたいということで会社へお見えになりました。そして「今度、子クラブを作るのだけれど、入らないか」と言われました。先ほど申し上げたように、子どもの頃からロータリークラブに憧れを抱いていましたので、一も二もなく入れさせていただき、今日に至ります。

飛火野という名前は日野ロータリークラブにつけていただいたのですが、昔の名前で多摩郡石津郷飛火野というのがこの辺りの地名だったそうで、そこから飛火野という名前をとって今に至っています。

遠藤さんを覚えている方もいらっしゃると思いますが、大変自分にも他人にも厳しい方でした。ロータリーに入る時に、遠藤さんから2つのことを約束させられました。1つは「100%例会に出る」ということです。出られない場合は、前後1週間、当時は前後1週間だったのですが、メイクアップしなさいと言われました。そして、「あなたは経営者だろ」「経営者は時間ぐらいコントロールできるだろ」「だから絶対出るよ」言われたのです。これは命令でした。

もう1つ、「ロータリークラブは単年度制だから、来た役職は絶対に断るな」と言われました。「1年我慢すれば終わる」ということで、「広報であろうと何であろうと、やれ」と言われまして、私はそれを着実に守ってきました。その結果、いま理事エレクトになりました。

ただ、この言葉には大変ギミックがありまして、1年で確かにその役職は終わるのですが、終わるとパスト、次が始まるんですね。ですから、北村さんいま会長ですけど、「この7月からは『パストとして新しい仕事が待っている』と思っていた方がいいですよ」と申し上げたいと思います。

また、100%メイクアップしなさいと言われたので、八王子西、東、南、町田、立川の会にはよく行きました。しかし時には、都心の会に行かなければならない時もありまして、どうせ行くなら大きいクラブ、美味しい食事のあるところ、ということで東京西ロータリークラブが開かれるホテルオークラ、辰野克彦RI理事がいらっしゃるのですが、そこにおっかなびっくりメイクアップしました。あそこは会員が200名近くいますし、オークラですし、30代の時だったので、恐々行ったのですが、その時にSAAのタスキをかけた足の悪いお爺さんがいました。80歳を超えていたと思います。その方が「今日はようこそ、よく来たね」ということで、「私が今日はずっとアテンドしてあげる」とおっしゃったんです。私は「え？」と思いました。オークラは着席ビュッフェなんですね。食事の時間になったら、「僕があなたの分を取ってくる」と、その足の悪い方がおっしゃってくださったんですが、とんでもないということで、一緒に取りに行きました。本当に1時間、僕の横にいてくれました。

私は最初は心細かったのですが、「メイクアップって楽しいな」「こんな人に会えるんだ」と思ったことを今でも覚えています。私が今ロータリーを続けていられるのは、この出会いがあったからかもしれません。その時に名刺を交換したのですが、その方が実は白洋社の創業者である五十嵐さんだったんです。私はそれ以来ずっと、白洋社を使っております。皆さん笑っておられますが、そういう人がやっている会社なら、間違いないと皆さん思いませんか？ですから私は、今でも白洋社を愛用させていただいております。

この話にはオチがありまして、私がちょうどガバナーをやっておりました2015～16年度に、東京西ロータリーがちょうど、60周年を迎えました。当時の会長は小島さんでしたが、「ガバナーは公式訪問などで疲れているから、うちの60周年に奥さんと一緒に来て、オークラの美味しい食事を食べて帰りなさい。なんの義務もないから」と言ってくださいました。それで、喜び勇んで妻とオークラに行きました。すると最初の魚料理が出るところで、「ではガバナー、一言」と言われました。「そんな話は聞いてないぞ」と思ったんですが、何を話そうかということで、当時はそこに米倉さんという理容室がありまして、当時そこにお世話になっておりました。そこで、米倉さんとの思い出と、五十嵐さんとの思い出を話しました。壇上から降りまして、テーブルに戻りましたら、そこに初老の方とそのご子息らしい方が立っておられまして。「今日は我が社の宣伝をしてくださいます、ありがとうございます」と、五十嵐さんの息子さんとお孫さんがご挨拶にきてくださいました。ロータリーはそういうご縁があるのだということを感じて、ロータリーに入って良かったなと思いました。私にとっては、それが初めてのロータリーモーメントで、いまだに忘れていません。

今、DEIという言葉がよく言われていますが、その時にもしも私が五十嵐さんにもっと冷たく接していたら僕は入らなかっただろうし、居心地も悪かっただろうなと思います。そういうことが帰属意識や居心地の良さにつながるのかなと、いまでも痛烈に思っております。皆様方も、SAAの役割は大事だということを常に思っていていただきたいと思います。

僕が入った1989～90年当時のRI会長、ヒュー・アーチャーですが、この方の「Enjoy Rotary」というテーマが好きでした。文字通り、「ロータリーを楽しもう」ということです。私はロータリー35年目に入りましたけれども、この言葉を忘れたことはありません。

ただ当時は、バブル期です。何をやっても楽しかった。ゴルフをしたり、夜間例会をしたり、何をしても楽しかった。けれども、だんだん「エンジョイ」が変わり始めました。ガバナー補佐を始めてから変わり始めたのですが、ロータリーは参加して、行動して、交流して始めて「エンジョイロータリーなんだ」と。参加もせず、行動もせず、交流もし

なければ、ロータリーに入った意味がないと思いますし、これらをやってこそ本当に楽しめるのだと思います。

ちなみに当時のガバナーは、田辺賢三さんという人で、東京南ロータリークラブのメンバーだと思いますが、その人の運営方針を見ると面白いんです。マンネリから脱する、自由な対話をする、参加して楽しいロータリーと。今でも十分に地区の方針やクラブの方針に当てはまるのかなと感じております。

当時私どものクラブの平均年齢は47.8歳で、かなり若いクラブでした。私が2015～16年にガバナーをした時、合同例会に参りまして、当時の会長幹事、覚えていませんけれども、東京日野RCと東京飛火野RCと、クラブの概要を聞いてみたら、日野RCの方が若かったんです。その時に打たれてしまい、会員増強が必要だと改めて痛烈に感じました。

私ども、高幡不動尊の客殿を使わせていただいておりますけれども、面白い縁があります。皆さん、裏千家の千さん覚えてますか。千さんの横にはいつも背の高い、きちんとした感じの秘書の方がいらっしやって、この方は先ほど言った秋山御前のお嬢さんでした。またそこで縁ができて、そのことを秋山さんに申し上げ、「うちの父も一緒にチャーターだったんですよ」と言ったら、「あら水野さん、クリスマス例会でお会いしていたかもね」と言われました。縁とは面白いなと思っております。

僕がどんなことをやってきたかという、89年にクラブに入り、10年後の99年に東京飛火野ロータリークラブの会長になりました。僕の人生が大きく変わったのは、2012～13年度、この年のRI会長は田中作次さん。「奉仕を通じて平和を」をされた方で、佐久間さんという方がガバナーでした。この年にガバナー補佐をしました。実はうちのクラブでガバナー補佐は僕で2人目です。濱田宣郎さんが最初のガバナー補佐でした。僕の知らないところで、次にガバナー補佐の順番がきたら、ガバナー補佐になるのは僕だという話がクラブの中であったようです。僕は2回逃げたんです。「勘弁してくれよ、できないよ」と言って。3回目で、歴代会長幹事会が飛火野の中で行われまして、僕がそこに呼ばれまして。これは受けないとクラブを退会しなければいけないのかなという感じになりました。仕方ないので、ガバナー補佐をやることをお受けしました。やって良かったんですけども。家内にその時、言っていたのは「僕はこれ以上地区で役職がきてもやらないよ、と。万が一、ガバナーなんてのがきてもやらないから」と宣言してたんですね。結果的にはなっちゃったんですけども。

2014～15年度にガバナーエレクトをしまして、ガバナー補佐の時に坂本さんと出会ったんです。覚えてますか。八王子南の。その時に、彼に見込まれたのかわかりませんが。ある日、坂本さんに呼ばれたんです。私と濱田さんが長老で。それで、うかい亭でご馳走になりまして。「僕、今日のご馳走になるだけでいいのかな？」と思ったら、デザート時間に、あの店はデザートを別室でやりますよね。その時に「やれよ」といきなり言うんです。その時、僕はとぼけたわけではなくて、「地区幹事か何かをやればいいんですか？」と聞いたんです。そうしたら「何を言っているんだ。俺は、ガバナーをやれと言っているんだよ」と言うんです。「先生、僕はとでもできません」とお答えしました。そうすると先生は「とにかく俺は決めたらから。考えろ」と言われて。僕は断る理由ばかりを考えていました。10日間くらい、考えるふりをして、答えは決まっていた「嫌だ」と言おうと思っていたので。ところが、僕が理由を考えて先生のところに行ったら、その理由をことごとく論破されまして。「この場で返事しなければ帰さない」という雰囲気になってしまいました。当時は渡邊良勝さんに僕の陪席をいただいていたのですが、渡邊さんと顔を見合わせて「これはやるしかないな」と。「じゃあ先生、できるかどうかかわからないけれど、お引き受けします」とお答えしました。家内にもこの話はしてありまして、自宅に帰った時、「どうしたの？断ったんでしょ？」と聞かれたのですが、「いや、それが…」と。それで、今に至ります。あの時、坂本さんに会わなかったらガバナーなんてやらなかったなと思っています。いろんな所で人と会って、今の僕があるのだなと思います。先ほどの五十嵐さんもそうでした。

2012～13年度の国際大会はリスボンでした。僕は義理の兄貴夫婦とリスボンに行ったんですが、何も考えずに個人で行きましたから、どこに会場があるか、どうやって行ったらいいかもわからなくて、車もバスも全然なく、ほとんど困り果ててしまいました。うちの家内が走り回って、ある方に出逢いまして、その方は岡山の方だったのですが、その方が「いいよ、いいよ」と。うちは40人のバスで、20人もいないから、乗って行っていいよ」と言ってくれました。それで、家内が僕に、その方に会ってお礼を言うようにと言うので会いに行きました。すると、「いいよ、いいよ。少ないんだから乗って行け」と。そして、彼は「ところで、君の奥さんは勇気があるね」と言うんです。「僕に聞くんだから」と。その方は岡山のバスターガバナーの延原さんという方で、岡山のボスだったんですね。それからその方に会いますと、「水野さん元気？、ところで奥さん元気？」と聞かれるんです。僕じゃないんですよ。そういうご縁をいただき、今でも交流をさせていただいています。人間、そういうご縁ができるというのは、いいなあと思っています。

先ほど言ったように、バスターは暇になると思っていたんですが、2016～18年度はロータリーインターナショナルの1～3地域、会員別増強プロジェクトリーダーをさせられました。2020年から米山記念奨学会の常務理事、副理事長を務めさせていただきました。米山友愛会理事は今でも務めさせていただいております。両方とも、公益財団法人です。

それから思い出深かったのは、2016年～21年の日本のロータリー100周年実行委員会の事務局長をさせられたんです。僕がガバナーを終わった年から、この準備実行委員会が始まって、2020年が日本のロータリーができて100年と

ということで、その時にお祝いをするということで、当時の斉藤理事のもとで事務局長を務めることになりました。ご存知のように2020年の2月からコロナでえらい騒ぎになりました。やる、やらないと。夜、眠れないこともありました。会場のキャンセルなども、自分でやらないとならないんです。ですから、僕と事務局長補佐をやっていた方で、2000万円の個人補助をしました。キャンセルをすると、400万円くらいかかるということで、一緒に保証をしてくれていた人が「もしキャンセルになったらどうする？」と言うので、僕は苦笑いをして「俺とお前で半分ずつ持とう」と話をしたこともあるくらい、追い込まれたこともありましたが、しかし、やって良かった。結局、オンラインでやって、千さんが祝う会の実行委員長でやらせていただきました。なんとか実行できて、ほっといたしました。

それから、ロータリーコーディネーターの第二地域をさせていただきました。これは皆さんもぜひ覚えておいていただきたいのですが、2018年から今年の6月30日まで、世界で6つあるロータリー平和センターのうちの一つ、ICUにある平和センターのホストコーディネーターを僕は6年間務めておりました、今日はバッジをつけてまして、鳩のマーク、これがピースセンターのシンボルマークなんですが、素晴らしい方達が来てまして、僕はそれを6年間務めました。

それから、2020～21年にRIの研修リーダーをやりました。ガバナーは国際協議会に行ってセミナーを受けないとガバナーになれないわけですが、そのトレーニングリーダー、いまはラーニングファシリテーターになりましたが、それを2年間務めさせていただきました。1年前はサンディエゴ、2年前はオーランド、フロリダに行くつもりだったんですが、オンラインになってしまいました。サンディエゴは行けたんですが。

それから、RIJYEM=日本ロータリー青少年交換多地区合同機構の副理事長をしていて、今年の6月に辞任させていただきたいと思っております。2022～23年度は理事エレクトとしてやっています。

先ほどの遠藤さんの「断るなよ、1年で終わるんだから」という言葉がありました。それを経て今ここに至る、というわけです。忙しかったですし、いろんな思いをしましたが、やって良かったと感じております。皆さん方も役職が来た時は「イエス」と「はい」と「喜んで」という言葉と、もう1つ、「待ってました」ということで、ぜひ受けていただきたいと思えます。

ここから先は、RIのことをお話しします。こちらはステファニー・アーチックさんです。来年2024～25年のテーマ「The Magic of Rotary」で、「みなさんと一緒にストーリーを語ってください」ということをおっしゃっています。ステファニーさんは12月10日に来日します。この方は、自分の年度の時に全ての平和センターを回って、平和構築がこの方の大きなイニシアチブになっていますので、ロータリー研究会でぜひ会ってみてください。

次に、ステファニー会長のイニシアチブの優先事項ですが、最優先の課題は「会員増強をはかる行動計画の推進」です。「3-Year Rolling Target/Plan」を覚えておいてほしいのですが、これは各クラブでやってほしいことを、ステファニー会長が言っています。

前はロータリークラブセントラルに100%入れてほしいとガバナー、ガバナー補佐から言われていると思いますが、2024～25年度中に、マイロータリーのクラブセントラルのフォームが変わると思います。今は1年しか入りませんが、3年入るようになると思います。ですから、北村さん、エレクトの遠藤さん、そしてその次のノミニエというかたちで、クラブの3年計画を立てていただきたい。その時に大事なものは、数字をつくることではなくて、ビジョン声明という4つの優先事項というのがありますので、それについてクラブでよくお話をし、その上でこの3-Year Targetを入れてほしいというのが、ステファニーさんの強いメッセージです。

ガバナーエレクトに、国際協議会でこう言ったんですよ。「皆さんにはお願いがある。各地区、100名の人員増員をしてください。そして、各地区で4つのクラブを作ってください。これは『or』ではなく、『and』です。両方やってください」と。このようにステファニーさんは、各地区のガバナー、エレクトに檄を飛ばしました。ガバナーやエレクトはみな、背筋が伸びていました。皆さんぜひ、ステファニーさんには会員増強について凄く強い思いがあるということ覚えておいてください。

また、「The Magic of Rotary」ということで、ロータリーでの体験を魅力的なものにするということがあります。「irresistible (イレジスティブル)」という言葉がありますが、これは「抗えない」という意味です。つまり、抗えない魅力をもったクラブにしてほしいというのが、ステファニーさんの強いメッセージでした。

3番目に、「積極的な平和を通じて、分断された世界を癒すこと」。平和構築が3番目のイニシアチブです。平和を達成するのに最も簡単な方法は、個人でもクラブでも、「4つのテストを実践してもらうこと」だと強く言っていました。また、ピースポールプロジェクトということで、この間Facebookにあげたのでご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。4月5日～14日までエバンストンに行っていたのですが、最後の2日前、ロータリーのエバンストン、ロータリーインターナショナルの前庭にピースポールを建てて除幕式をやってきました。興味があればぜひみていただきたいです。平和のメッセージが6カ国語くらいで書いてあります。

4番目が、「継続と変化のバランス」です。RIは変化が激しいとよく批判されるのですが、ステファニーさんは「継

続と変化のバランスを取るのが難しい局面に直面している」と言っています。変化が激しい中で、継続性を維持しながらどうやってその変化に対応していくのが、ステファニーさんが言っていることです。地区もクラブもロータリーインターナショナルにとっても、この問題がついて回ると思っています。

次に、日本の現状と課題ということでまとめてきました。固定化した例会運営ということが挙げられます。日本ぐらいいいんですね、約90%のクラブがお昼に例会をやっているのは。お隣の韓国も、朝昼夕とやっています。また、「I serve」から「We serve」へと、奉仕団体化していますが、この時大事なものは、では他のNPOやNGOとロータリーは何が違うのかということです。これをよくよく考えないと埋没してしまうと考えています。

また、単年度制の弊害があります。また、いつも言われることですが、若い世代と女性の低い会員率については、各クラブでDEIを本当に実践していますか？ということをよく考えていただきたいと思います。2016年、2019年の規定審議会、特に2016年にはクラブの自由裁量権を増やすとか柔軟性を取り入れるということがありました。あの結果、しかしほとんどのクラブが取り入れることができませんでした。なかなか既存のクラブが変化させるのは、難しいと思います。だからいま、RIは新しいクラブを作ってほしいということを痛烈に言っていますが、時代の変化に合わせて新しいクラブを作ってほしいということを強く言っています。

それから、入会する理由や会員を継続する理由は何かということですが、地元社会の奉仕活動への参加、社会的または職業的つながり、また個人の成長と学習の機会などがあります。特にローターアクトや若い世代は奉仕活動への参加意欲が高いです。このいい例は中央大学のローターアクトクラブです。人数がいきなりもの凄く増えました。このクラブは1年生から4年生まで、学生だけでやっているのですが、奉仕活動のことを聞きつけて若い人がどっと入ってきたということがあります。これも一つのポイントかと思えます。

では、退会理由は何かというと、クラブの環境、文化、入会前のクラブへの期待との相違ということ。先ほど言ったSAAの役割は大きいのですが、「Belonging」や「居心地」ということが最近よく言われており、これがないとクラブの例会はなかなかうまくいかないと思います。また、入会前のクラブへの期待との相違というのは、とても大事だと思います。僕は中さん、中さんは僕らの特別代表で、ロッキード事件の時に田中元首相の弁護士を務めた方ですが、僕が入会する前に中さんに毎週とにかくしつこいくらいに炉辺会合されて、難しい顔をして、「職業奉仕とは」「社会奉仕とは」「ロータリーとは」などといった話を、毎週ですよ。その後、飲むと「おめえよう」と砕けた感じで楽しい時間を過ごしました。今思うと、あの時何を言われたかは覚えていませんが、僕にとってとても貴重な時間でした。今はそれがとても少なく、だから入ってから即辞める人が多いのかなと思っています。ぜひ、入会前にしつこいくらいにロータリーについて語って、勧誘していただきたいと思っております。

次はローターアクトについてです。ローターアクトはロータリーと違って女性会員比率が、世界でも日本でもかなり高いです。

会員数の変遷です。1番減った時は115万人まで減りました。アジアが世界の中で1番会員数が伸びています。コロナ禍で、フィリピン、韓国、台湾は過去最高の人数を達成しています。コロナ禍でも、会員増強をきちんとしているところもあります。アジアではタイと日本が苦戦しているのかなと思います。ついでにいいですよ、韓国は2027年に100周年を迎えます。いまは6万何千人なんですけど、その時までには10万人にするという凄い計画を立てています。ですから、しゃにむにやってくるかもしれません。

2019年に3ゾーンを割ったのが、2.5ゾーンになりました。ゾーンというのは3万5000人で一つのゾーンです。ゾーンは何のためにあるかということ、ゾーンは、RIの理事を選出するための単位なんです。日本は17分の2を維持していましたが、2.5になったということは、17分の1になる時期が凄く増えたということになります。つまり、発言権が凄く低下したということになります。ですので、3ゾーンを取り戻したいと思っています。

ロータリー研究会では、2025年度に向けてポリオデーとフォトコンテストをやっています。写真をぜひ出してくださいと思います。最優秀賞はRI会長から賞状をもらうことになると思います。ぜひよろしくお願ひします。全国紙にも載せたいと思っています。

ここに尾身先生が出ていますが、尾身先生はロータリーの「ポリオ根絶アンバサダー」に就任していただくことができます。今後タイアップして尾身先生の力をお借りしたいと思っています。

最後に写真をお見せして終わりにいたします。これらの写真は、私が国際協議会で撮ったもので、私がどんな風楽しんでるかという写真です。文化交流会でハッピーを着たり、佐藤理事の奥様との写真や同期の理事、研修リーダー仲間と撮ったもの、ジョン・ヒューゴご夫妻も写っています。こんな風に会議が終わった後に懇親をしています。

こちらはガバナーエレクト伊藤千恵さんと私ども夫婦で撮った写真です。そんな風で、いろいろな会に参加して、行動しながらロータリーを楽しんでいます。

先ほども言いましたが、参加して、行動して、交流して、エンジョイロータリーということを忘れないでいただきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。



2024-25年度RI会長 ステファニー・アーチェック



会長テーマ発表



RI元会長 ジェニファー・ジョーンズ

【出席報告】 柴田 健介 委員長



	会員総数 (出席免除数)	出席総数 (免除者出席数)	MU	欠席	出席率
本日報告(4/24)	33 (0)	25 (0)	2(0)	6	81.818%
前回訂正(4/20)	34 (0)	14 (0)	11(0)	12	73.529%
前々回訂正(4/10)	34 (0)	21 (0)	4(0)	9	73.529%
前々々回訂正(4/3)	34 (0)	24 (0)	4(0)	6	82.353%

<事前の MU>

小田原 潔 (社会奉仕)
横倉 利夫 (60周年)

<前回の MU>

石場 裕美 (理事会)、小倉 裕美 (理事会)、田中 くに子 (定款・細則)、野村 圭伊 (飛火野 35周年)、松浦 信平 (飛火野 35周年)、宮野 孝雄 (飛火野 35周年)、山口 徹雄 (定款・細則)、山下 雅裕 (飛火野 35周年)、吉田 宇秀 (理事会)、岩田 和頼 (社会奉仕)、佐保 勝彦 (次年度クラブ協議会)

<前々回の MU>

疋田 久武 (飛火野 35周年)、山口 徹雄 (次年度理事会)、横倉 利夫 (飛火野 35周年)、小田原 潔 (立川こぶし RC)

<前々々回の MU>

疋田 久武 (クラブ奉仕)、小田原 潔 (飛火野 35周年)、菅原 直志 (飛火野 35周年)、鈴木 洋子 (社会奉仕)

【ニコニコ報告】 関子 久雄 委員長

本日のニコニコ： 8,000 円 / 累計 398,047 円

ビジターフィー： 2,000 円 / 累計 42,000 円



北村 淳 君..... 水野功様、太田善正様 本日はようこそお越しくださいました。水野様、本日の卓話どうぞよろしくお願いたします。

小島 馨 君..... 水野 RI 理事ノミニー 今日楽しみに致しておりました。

山口 徹雄 君..... 水野様 本日よりしくお願いたします

まんぼう 君..... 水野 RI 理事エレクトの卓話 拝聴させていただきます

疋田 久武 君..... 水野様 本日は卓話をありがとうございます。楽しみにしております。

遠藤 力 君..... 水野 RI 理事、太田パスト会長、本日は、卓話楽しみにしております。よろしくお願申し上げます。

関子 久雄 君..... 妻の誕生日に綺麗なお花が届きました。ありがとうございます。

東京日野ロータリークラブ会報

事務局：〒191-0031 東京都日野市高幡 3-8 田中ビル 3 階
TEL：042-594-3711 fax：042-593-0510

例会：毎週水曜日 (12:30 より) 例会場：高幡不動尊客殿

URL：<http://www.hino-rotary.org> 桃源院青雲 5 階(2023.7.1~)

メール：info@hino-rotary.org

会長：北村 淳 幹事：伊東 秀章

会報委員会：山口 徹雄 (委員長)

疋田 久武 (副委員長)

小島 馨

菅原 直志

山下 雅裕